

俳句

たね だ さん とう か

種田山頭火



防府市

(1882～1940)

大地主の長男に生まれ、十歳にして母親の自殺という不幸に見舞われる。早稲田大学時代にヨーロッパの自然主義の洗礼を受け、新しい文学に志をたてるが、神経衰弱や実家の破産、弟の自殺、戸籍上の離婚、関東大震災に遭遇などで、遂には出家得度する。行乞流転の旅の中で生と死、闇から自由、酒と純化、孤高と望郷といった振幅の大きい、とりわけ人間の弱さを背負った独自の句境を切り開き、一万を越える自由律俳句と日記文学を残した。窮屈な人間生活に心の開放と安らぎを与え、俳界に一つの可能性を展開した。

(富永鳩山)

【主な著作】

『山頭火全句集』(春陽堂書店、平成16年)

『山頭火全日記』(春陽堂書店、平成16年)

『山頭火全書簡』(春陽堂書店、平成16年)